

幸せを感じる言葉～萩本欽一～

校長 黒川 弘 教

何気ない言葉で人は幸せになり、何気ない言葉で人は傷つきます。子どもたちの言葉を聞いていると少しきつい言葉だな。温かい言葉だな。と思うことがあります。昨年度人権メッセージで「温かい言葉があふれる浅海小学校にします。」というメッセージを発信した学年がありました。思いを行動や言葉で表現し、みんなが仲良く生活できる浅海小学校にして欲しいと願っています。

表題にある言葉はTVタレントである萩本さんが書いた本の言葉です。萩本さんは、茨城ゴールデンゴールズの野球チームを創設しました。ある時、選手全員に一言お願いしますと言われました。みんなの前に立ったとき、出てきた言葉は「うーん、何もない」という言葉だったそうです。本当は「がんばれよ」と言いたかったようですが、この言葉は、たった一人のために言う言葉だと思い、誰もいないところで一人一人に「お前、がんばれよ」という言葉をかけられたそうです。みんなの前で言ってしまったら、言葉から温度がなくなると思ったそうです。また、家庭の中でも、温度のある言葉のやり取りをして欲しいと下記のような文章がありました。

子どもがお手伝いをしてくれた。「ありがとう」とそのとき言うだけでなく、寝るときにもう一度、子どもの耳元でささやいてほしい。「今日は手伝ってくれてありがとうね。とっても嬉しかったよ」と。この喜びを、子どもは一生忘れることはない。

父ちゃんが朝出かけるときに、母ちゃんが耳元でささやく。父ちゃんは「うん」と言うだけ。子供はそれが気になって仕方がない。あるとき子供は思い切って聞いてみた。「母ちゃん。毎朝、父ちゃんに何をささやいているの？」母ちゃんは少し照れたように言う。「父ちゃん、いつもありがとうねって言ってるんだよ。でも、そんなこと、あんたに聞かれたくなかったんだよ」と。「そういうありがとうもあるんだ」と子どもは思うだろう。そして「ありがとう」という言葉の温かさをきっと忘れることはない。心のこもった言葉を、たった一人の人に向かって言う。そこに思いやりや温かな空気がうまれる。言葉自体は単なる記号に過ぎない。でも、そこに心を乗せることで、温かなお日様のようにになっていく。みんなを優しく包んでくれる幸せのお日様のように。

雨の中がんばった！市総体陸上の部



10月17日（火）松山市総合体育大会（陸上の部）が行われ、5・6年生8名の児童が参加しました。当日は時折雨も降るあいにくの天候で、競技を行うコンディションはベストな状態というわけにはいきませんが、日頃の練習の成果を発揮して最後まで頑張りました。また、同じ北条地区の他校選手を応援するなど、積極的に交流も行うことができ、6年生にとっては中学校にもつながるよい機会となりました。保護者の方々も朝早くからの見送りや出迎え、スタジアムでの応援など、いろいろな形でご協力いただきました。本当にありがとうございました。

人権教育懇談会・人権ふれあい集会

10月21日（土）校区別人権教育懇談会が行われ、人権に関する授業公開などが行われました。人権ふれあい集会では、各クラスで考えた「浅海なかよし宣言」の発表や、えひめ紙芝居研究会のぼ～る会長の稲葉良恵さんと、食文化・料理研究家で作曲家の中村和憲さんによる人権啓発紙芝居「さんかくなあに」「いのちの詩」を鑑賞しました。多面的に物事を考えたり、命のつながりを考えたりすることができました。台風の近づく荒れた天候の中、たくさんの保護者や地域の方々にご参加いただき、一緒に人権について考えることができました。本当にありがとうございました。



浅海なかよし宣言！

- 【1年】 毎日、笑顔で、気持ちよく暮らしたいです。そのために、①目と耳と心で人の話を聞きます。②優しい言葉を使います。③みんなでなかよく遊びます。
- 【2.3年】 チクチク言葉を使わず、あったかふんわり言葉を使って、なかよくします。まわりの人のことを考えて行動します。
- 【4.5年】 30人で励まし合って、心に光る希望をもちます。そして、全校の絆を深め、満開の笑顔の花を咲かせます。
- 【6年】 30人の団結力で太陽のように輝き、海のような広い心で周りの人を気づかう浅海っ子になります。